

今回お話を伺ったのは >>>

森・濱田松本法律事務所

図書担当
中村 智子 様

法律事務所ユーザーインタビュー第1弾目は、日本の法曹界をリードする森・濱田松本法律事務所より図書担当の中村様よりお話をいただきました。

お仕事の内容を教えてください。また、何名くらい図書担当の方がいらっしゃるのですか？

「はい。図書セクションの責任者をしております。業務は主に蔵書の管理と、商用データベースの管理です。図書担当は私を含めまして現在7名です。」

どのような経緯でレクシスネクシスを使うようになったのですか？

「10年位前の話になりますが、国際法務担当弁護士から、海外の判例検索データシステムでレクシスがあるが、日本で契約できるのか調べてもらえないかという依頼があったのが発端です。導入を検討したのですが当時は日本人が無く、代理店のみの販売だったせいもあり保留しておりました。結局正規導入をしたのは日本人が設立された後、今から5年位前ですね。」

LexisNexisのサービスをどのような情報収集目的でお使いになっておりますか？

「まずは判例の検索ですね。法令もよく検索します。ニーズが多いのが論文等に掲載されている引用判例・文献の入手ですね。新聞・雑誌も利用します。」

新聞・雑誌ではどのようなトピックをお探しになるのですか？

「日本企業の海外での訴訟、海外における活動(進出・撤退等)の記事をリサーチします。また、日本の法改正の記事が海外でどのような表現で報じられているかを確認するためにも使用します。新しい法律が成立した時や、ある法律に新しい文言が盛り込まれた場合など、英語での表現のチェックに新聞・雑誌が役に立ちますね。また、新しい経済用語・金融用語の英語の表現のチェックにも役立ちます。翻訳担当者もその情報をよく利用しております。」

Firm全体のナレッジ研修はおこなっていますか？

「人数が多く、スケジュール調整が厳しい為、定期的な開催はしていませんが、弁護士、事務員の入所時に、蔵書の探し方、日本法データベースの活用法などを教えるための講習会を適宜行っております。去年になりますが、留学前の弁護士にはLexis.comの利用法講習会を行いましたよね。この講習の目的は、米国内国スクールにおいて、データベースの検索は不可欠ですので、Lexis.comの活用方法を把握しておいて欲しいために設けたものです。」

弁護士さんもご自身でレクシスネクシスのデータベースを利用していますか？

「利用しています。若手の弁護士にはなるべく触れてもらえるよう私も働きかけをしています。やはり頼むよりもご自分で探した方が的確なものを選択できますからね。」

英語のデータベースに対する壁はありますか？

「そうですね、無いことはないですね。年代で分かれるかもしれませんが、留学から帰ってくればまずクリアですが、ずっと日本にいる方はもちろん壁がありますね。ただ英語の文献を参考にする場合もございまして、使用しているうちに慣れてくると思います。」

Lexis.comをお使いになっていて便利なおところを教えてください。

「事務所では引用判例や、文献の検索を多々行っております。レクシスでは引用番号入れるとすぐ探しているものがヒットするので、これは非常に便利だと思います。」

LexisNexisサービスについてご要望をお聞かせください。

「要望まではいかないのですが、法令(連邦法・州法)検索などはわかりやすい項目設定をして欲しいですね。」

ご利用暦は？(導入されました時期は?)

「2000年から利用しています」

お気に入りのコンテンツは？

「判例・法令及び文献、ニュースいろいろあります。」

現在導入されております商用データベースは？

「日経テレコン、判例体系、EOC、TKC、判例マスター等、たくさんございます。海外のものはLexis.com及びWestlawです。」

インタビュー実施日：2004年1月17日